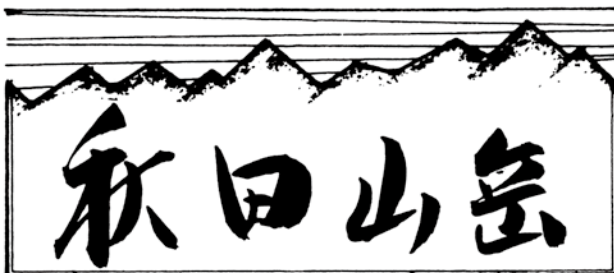


2024



令和6年11月 発行

No. 132

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市外旭川八幡田
2-1-9 小松方

TEL・018-868-5445

発行者 佐藤和志

編集者 高橋雄悦

秋田支部設立65周年記念



支部設立六十五周年記念式典と祝賀会が十一月二十三日、秋田市の協働大町ビルで開かれた。会員ら二十一人が出席して節目を祝うとともに、支部の一層の発展を誓い合った。

冒頭、物故会員への黙祷を行った後、小松芳美事務局長の司会で式典を進めた。

佐藤和志支部長があいさつ。「今、

支部設立六十五周年の節目祝う

式典と祝賀会、盛會裡に終了

高橋雄悦

全国でクライミングが注目されており、山岳会としてもクライミングに力を入れていく必要があると考えている。今後、若い人に入会してもらうためには、支部そのものが変わっていかねばならない。設立七十周年に向けて会員の皆さんの協力をお願いしたい」と述べた。

引き続き、支部設立当時から唯一の会員である長岩嘉悦名誉顧問から寄せられたメッセージが披露された。

記念講演では、鈴木裕子顧問が「支部設立六十五周年に思う」と題して、支部が取り組んできた国内外の山行を振り返った。

初代支部長とは知らずに、荒巻廣政先生にお願いして登った最初の太平洋登山から説き起こし、初の海外登山となった韓国・智異山交流登山など多くの訪韓・訪台親善登山を通じて得た山行の思い出や岳友との貴重な交流について、スライドを交えながら紹介した。

特に、日本山岳会百周年記念事業の中央分水嶺踏査登山（平成十五（十八年）で奥羽山脈を縦断した経験について触れ「残雪期で大変な思いもたくさんあったが、今振り返れば参加してよかった」と述べた。

その上で「ことは大病したが、設立七十周年、八十周年を目標にまた皆さんと山に登れるよう頑張りたい」と締めくくった。最後に参加者全員による記念撮影で式典を終えた。

会場を隣室に移して開いた祝賀会は、高橋雄悦会員の司会で進行了。鎌田倫夫副支部長のあいさつに続き、佐々木民秀顧問の音頭で乾杯した。

懇親の合間には出席者が一人ずつ近況を報告。「山は人や自然との出会いの場。山を歩いていると希望が湧いてくる。これからも山歩きを続けたい」などと抱負を語っていた。

山の会ならではの趣向として全員で秋田県民歌、坊がつる讃歌、岳人の歌を合唱。和気あいあいと

記念講演する
鈴木顧問

した雰囲気の中で旧交を温め合った。最後は今野昌雄顧問の一本締めで祝賀会を閉じた。

会場には佐々木顧問が長年収集、保管してきた支部の歴史を物語る貴重な資料や図書が多数展示され、式典の合間に参加者が熱心に見入っていた。



貴重な資料に見入る参加者

なお、次の方々からご芳志などをいただきました。記してお礼申し上げます。(敬称略)

ご芳志

二万円 長岩嘉悦
五千元 佐々木民秀 鈴木裕子

四千元 鎌田倫夫 福田光子

お酒 佐藤和志 今野昌雄

出席者

佐藤和志 佐々木民秀 今野昌雄
福田光子 高橋 守 佐藤助雄

田口善信 柳田勇悦 柳田ルイ子
若月 寿 鈴木裕子 鎌田倫夫

佐藤 博 大橋忠雄 柴田 勲
後藤浩二 三浦昭男 高橋吉一

畠山 靖 小松芳美 高橋雄悦

山の日で新聞広告 支部旗を五本新調

佐藤支部長が寄贈

祝賀会では、八月十一日の「山の日」に合わせて、地元紙の一面に秋田支部の広告が掲載されたことが紹介された。さらに、山行時の写真撮影などの際に活用するための新しい支部旗五本が支部に寄贈された。いずれも佐藤支部長の厚意で実現し、祝賀会の席上で会員を代表して佐藤助雄会員が佐藤支部長から受け取った。佐藤助雄会員、高橋雄悦会員、歩仁内昌樹会員、高橋雄悦会員、小松芳美事務局長が一本ずつ保管する。



六十五座ラリーの実施状況について(経過報告)

小松芳美

四月二十日開催の通常総会で、支部設立六十五周年記念事業の一環として「六十五座ラリー」の実施が決定した。十一月二十五日現在の達成状況は、六十四座。最終的に六十五座を超える勢いである。ラリーは年度末の三月まで継続しており、引き続き皆様からの山行報告を期待している。登頂済み六十四座は次の通り。

▽剣ヶ峰▽鹿島槍南峰▽鹿島槍北峰▽五龍岳▽唐松岳▽爺ヶ岳▽布引山▽西穂高丸山▽大黒岳(以上長野県)▽新山▽七高山▽以東岳(山形県)▽男岳▽八幡平▽茶臼岳▽三ツ石山(岩手県)▽祝瓶山(山形県)▽猫ヶ魔岳▽猫石(以上福島県)▽山伏岳▽須金岳(宮城県)▽大白森▽白岩岳▽奥岳▽丁岳▽小白森山▽大石岳▽剣岳▽竜ヶ森▽小岳▽御衣森▽中岳▽相ノ山(岩手県)▽木和田山▽七滝山▽前岳▽霊峰▽本山▽八塩山▽毛無山▽姫ヶ岳(阿仁)▽日住山▽真山▽太平山(羽後)▽大平薬師▽房住山▽高山▽高尾山▽大平山(姫神山)▽岩谷山▽虚空蔵山▽寒風山▽七ツ森(岩手県)▽観音森(岩城)▽姫ガ岳(男鹿)▽駒鳴峠▽白山▽権現座▽母谷山▽大

東北・北海道地区集会の 秋田開催について

小松芳美

七月十二日の福島集会で、東北・北海道地区の第三十九回集会(令和八年予定)の秋田開催が内定した。

開催準備に当たり、秋田支部の現状や力量(会員減少、高齢化、事務局の経験不足など)を勘案し、方向性を次のように捕えている。

- ・秋田市から比較的に近い開催場所と山行地とする
- ・宿泊人員の多い施設を会場として選定する
- ・登山の難易度が低い山を選定する

現段階では次の実施要領を有力と考えている

・開催日 令和八年七月十日(土)、十一日(日)

- ・会場 男鹿市及び大潟村の施設
- ・山行とトレーニング案 寒風山をメインとした山行コースと散策コースの候補地を同地区で選定

今後は様々なメリット・デメリットなどを考慮し、打開策を練りながら検討していきたい。会員各位には趣旨を理解の上、ご協力を切に願いたい。



ゆつくり山行

第二回は房住山へ

鎌田倫夫

九月二十八日(土) 集合場所の厚生医療センター駐車場には予定通りの七名が集まり上小阿仁村の房住山に向かった。

夏の水害で一部片側通行の情報があつたので町の観光協会へ事前にお問い合わせをお願いした。

登山口の「ぼうじゅ館」に立ち寄ってから駐車場に向かうと若月寿会員が待っており、八名全員が揃ったところで出発する。

出発して間もなく房住神社に着き参拝して無事を祈る。稜線は一番からの縦走コースの合流点になつておりベンチもあり休憩する。最近刈り払われたと思われる歩道は歩き易くとても快適である。

このコースは平成二十七年十月三十一日に秋田支部で企画しており、当時は三階建ての山頂小屋は蛍光灯付きの休憩室になつていたが、現在三階の休憩室は使用できず、二階の展望室までも注意して上らなくてはならない。

尚、ぼうじゅ館の管理人に聞いたところ修理の予定はないようだ。

参加者

柳田勇悦 若月 寿
鎌田倫夫 三浦昭男

会員外四人

個人山行報告

「御衣森」再訪

歩仁内昌樹

ある人から「御衣森(みそもり)までの道ができて」と聞いた時は、まさかと思つた。

御衣森は太平山の東側に位置する標高一〇〇〇メートルの山で、登山道はない。奥岳山頂から延びる尾根を進むことになるが、一〇五四メートルと九六六メートルの

ピークを越えていかなければならず、アップダウンが激しく、何よりも、猛烈な藪漕ぎを強いられることになる。

ピタリ一〇〇〇メートルという山頂以外に、眺望が優れている訳でもなく、一般登山者向けとは言えないため、道ができてという話は信じ難かった。

是非とも自分で確かめてみたいと思い、令和六年九月二十九日に太平山野田コースを出発した。

私が御衣森を知つたのは平成二十二年の時である。日本山岳会に入会する以前で、私は大橋忠雄会員と山行を共にすることがあり、この年の十一月二十八日に大橋さんから誘われて御衣森を登頂している。

十四年も前のことであるが、この山行は今も鮮明に覚えている。旭又コースを六時に出発したが、登山口に戻つたのは十八時であつた。日が短くなった時期で、奥岳山頂からはヘッドランプを点けて下山した。

奥岳から御衣森の間はあまりの藪漕ぎで往路と復路にそれぞれ一度ずつルートを見失い、特に復路では現在地も分からなくなり、ビバークを覚悟した。

先を歩く大橋さんが三メートル離れると姿が見えなくなる程の藪で、市販のビニールテープを伸ば

しながら進んだのは、この時が初めて最後である。

正直、現在地が分からなくなつた時、私はパニックに陥つていた。「ぶにうちくん、まずは座つて、何か食べよう」と大橋さんから声を掛けられ、あんパンを食べたら落ち着きを取り戻したことが忘れられない。

もう訪れることはないと思つていた御衣森であつたが、二回目の登頂をすることができた。



シメ沢、貝倉沢を詰めて太平山を下する沢やが拓いた道であるため、登山道と言える立派なものではないが、藪漕ぎをしなくて歩くことができた。

十四年前に大橋さんが記念にと鉤目を入れた山頂の立木は見付けたことができなかったが、何もなかった山頂には堀井弘顧問製作の看板が立てられていた。

コースタイム 7:00登山口
9:40奥岳 10:50御衣森
(昼食) 12:30奥岳 14:50登山口
(単独行)

訃報

韓国岳人・李載洪氏逝く

佐々木民秀

長い間、秋田支部と親交のあった韓国岳人・李載洪氏は、病氣療養中のところ去る六月に永眠されました。(享年七十九)

謹んでご冥福を祈り、哀悼の誠を表します。

計報は、韓国山岳会慶南支部会員でもある京都市の城木ケイ子さんから鈴木裕子前支部長にメールが届けられての知らせであった。

李氏は、韓国山岳会・元老会(旧)の会員で、秋田支部による訪韓登山の際には、その度ごとに配車を担当して下り、いつも笑顔で快く迎えて下さった。

また、元老会では最も若い実力のある会員でもあった。

これまで数回の来秋で、太平洋や駒ヶ岳、鳥海山等を当支部会員と共に登山を楽しんでいるが、中でも、平成五年六月、太平山山頂に姉妹山締結記念標柱を設置したことや、平成十八年六月に鶴ノ湯温泉で行われた東北・北海道地区集会には、奥様を伴って参加され、好きな温泉を楽しんでいたことなどが憶い出される。

李氏は、腰痛で長い間登山は中止していたが、電話や賀状での交流は忘れることなく親交を深めていただいていた。

昨年の十一月に、李氏の岳友でもある崔在一氏一行が来秋された際、李氏本人から突然電話があり、それが最後の声となってしまった。私を常に「兄貴、兄貴」と呼んでいたあの声が懐かしい。

先に逝った私の岳兄・曹斗鉉氏を始め、秋田支部訪韓の度ごとに支えて下さった数多くの韓国岳友のご冥福も合わせて祈りたい。

(合掌)



写真右から曹斗鉉氏、李載洪氏、筆者＝平成五年六月撮影

支部連絡会議参加報告

- 1 開催日＝九月十九日
- 2 開催場所＝オンライン
- 3 出席者＝本部・橋本会長ほか、秋田支部・高橋雄悦
- 4 本部報告の要点は次の通り。
 - ・広報委員の設置について 会員増が大きな課題であり、一般の人や企業に対する広報活動を強化する。その一環としてニュース配信会社「PR TIME」と契約してプレスリリースを流していく。
 - ・東京支部の設立について 準備が整い、二〇二五年四月に設立総会を開催する予定。
 - ・デジタル化の推進について 入会申込書をホームページからダウンロードできるようにしたほか、一般会員へグーグルアカウントを配布する。
 - ・新入会員の獲得目標について 各支部が目標数を公表した。秋田支部は三人とした。
 - ・財務改善策について 会誌「山」郵送のため毎年四百万円かかっているが、郵便料金の値上げで来年から百二十万円程度郵送代が膨らむ見通し。対策としてデジタル化の推進を進めたいが、紙をなくすわけにもいかない。会費値上げの必要性も含めて、対応を来年の総会で決めたい。

会務報告

事務局会議

○十一月五日(火)午後一時から、秋田市泉コミセンで。

秋田支部設立六十五周年記念式典に向けて、事務局員による役割分担など最終打ち合わせを行った。

出席者

鎌田倫夫 後藤浩二
三浦昭男 小松芳美
高橋雄悦

編集後記

支部設立六十五周年記念式典の記事を掲載した会報百三十二号をお届けします。式典で鈴木顧問の記念講演を聴きながら、支部の諸先輩が刻んできた輝かしい歴史と伝統に改めて感動し、敬意を覚えました。同時に、この伝統を受け継いで次世代にバトンタッチするためには、どうしたらいいのか自問自答しています。(高橋雄悦)

・本会百二十周年記念式典について 新宿の京王プラザホテルで予定している。出席者は四百人を目標としたい。これまでとはスタイルを変えて支部主体の式典とした。このため、各支部に出席者確保を割り当てたい。(高橋雄悦)